

性はどようやって決まる？

近年、ダイバーシティ、LGBTQ+など、性への関心が高まっている。これまでの議論では、人間社会のみが対象であったり、生物学的な研究報告であったりと、両者をつなぐ議論はあまり見られていない。そこで本講演会では、性の決定要因を文理一体となって、様々な視点から考えることとしたい。

はじめに生物学的な知見から、どうぶつの性決定遺伝子SRVについて、次いで甲殻類の視点から、雌雄同体カブトエビについて解説する。そして人間に視点を移し、性同一性障害から見た人の性決定について説明後、トランスジェンダーのスポーツ参加やフェミニズムとクィア、トランスライツ運動の発展を理論と政治運動の視点から解説する。

「性決定」を様々な視点から、包括的に考えようとするこの企画は、性決定の理解を深め、今後の多様な社会づくりへの意識改革に貢献できると考える。今回の講演会では、この主題に対する研究を理系・文系などの視点で捉え、学術的理解を深め今後の展望について議論したい。

ハイブリッド開催

令和6年
12/6 金
13:00▶16:30

OKB岐阜大学プラザ 岐阜県岐阜市柳戸1-1
<https://toic.aip.thers.ac.jp/gifu/>

参加無料 どなたでも参加できます

参加希望の方は、令和6年11月29日(金)までに下記URLまたはQRコードより事前に申込みをお願いいたします。定員(現地50名、ウェビナー 500名)になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。

<https://forms.office.com/r/1wH9rEEYwN>



13:00▶13:20 開会挨拶

岐阜大学長 吉田 和弘

日本学術会議副会長 日比谷 潤子(日本学術会議第一部会員、国際基督教大学名誉教授)

13:20▶13:30 主催者挨拶

日本学術会議中部地区会議代表幹事 高田 広章(日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授)

13:30▶13:40 科学者との懇談会活動報告

中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久(愛知教育大学名誉教授、元学長)

日本学術会議第192回総会を傍聴して

中部地区科学者懇談会岐阜県幹事 山本 公徳(岐阜大学地域科学部教授)

13:40▶16:30 どうぶつの生物学的な性 一性決定遺伝子SRVについてー

宮脇 慎吾(岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科准教授)

オスらしさメスらしさを決めるのは何か ー雌雄同体カブトエビ

長縄 秀俊(岐阜大学応用生物科学部特別協力研究員)

性同一性障害から見た人の性決定

深尾 琢(岐阜大学保健管理センター教授)

性の多様性とスポーツ

松下 千雅子(名古屋大学人文学研究科教授)

質疑・まとめ

16:30 閉会挨拶

司会 日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 大藪 千穂(日本学術会議連携会員、岐阜大学副学長、教育学部教授)



お問い合わせ

日本学術会議中部地区会議事務局(名古屋大学研究協力部研究企画課内)

TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041

岐阜大学

TEL: 058-293-3140 FAX: 058-293-3209

主催 日本学術会議中部地区会議

共催 岐阜大学

後援 公益財団法人日本学術協力財団

<https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>

日本学術会議中部地区会議学術講演会 講師プロフィール



宮脇 慎吾

岐阜大学応用生物科学部
共同獣医学科
同 高等研究院One Medicine
トランスレーショナル
リサーチセンター 准教授

どうぶつの生物学的な性 一性決定遺伝子SRYについてー

私たち人間を含むどうぶつ（ほ乳類）は、オスとメスの性がある。「どのように性が決まるのか？」というテーマは古代ギリシア時代より議論されてきた。現在では、ほ乳類の性は性染色体の組み合わせで決まることが知られている。XX型はメスになり、XY型はオスになる。さらに、1991年には、Y染色体に存在するSRYが性決定遺伝子であると示された。それ以降、ジェネティクスやエピジェネティクスの発展により、生物学的な性の理解が進んでいる。本講演では、「どのように性が決まるのか？」に関して、これまでに解明された生物学的な知見を紹介する。

Profile

専門は獣医学・分子遺伝学・発生学。岐阜大学応用生物科学部獣医学課程を経て、慶應義塾大学大学院医学研究科を修了、博士（医学）。大学院修了後は、北海道大学にてハダカデバネズミの研究に従事し、さらにその後は徳島大学、大阪大学でマウスの性決定の研究に従事し、マウスの真の性決定因子SRY-Tを発見した（Miyawaki et al., Science 2020）。現在は、岐阜大学の共同獣医学科で、様々な動物の性質や病気に関する遺伝的な研究を進めている。



長縄 秀俊

岐阜大学応用生物科学部
特別協力研究員

オスらしさメスらしさを決めるのは何かー雌雄同体カブトエビ

成熟した動物のオスは、メスに出会うと求愛して配偶行動を試みる一方、他のオスに出会うと攻撃を仕掛ける。陸上の池沼や水田などにすむ小型甲殻類のカブトエビには、ふつうオスとメスが存在するが、日本にすみついた外来種の多くは雌雄同体（オスとメスの生殖器官を一個体にもつ）である。人間も含めて哺乳類の染色体の型は、オスがXYで、メスがXX、ということは一般的にもよく知られ、Y染色体上にあるSRYという遺伝子が性を決めている。カブトエビの場合はSRYではなく染色体の数によって性が決定され、細胞ひとつひとつで性が異なる。オスでもメスでもない雌雄同体は間性という第3の性である。オスらしさメスらしさのうち、生殖器官やオスメスそれぞれに特有の体つきを形づくるのが、性ホルモンの合成を促進する遺伝子と受容体の働き、そしてオスの性行動を規定するのは、性ホルモンを介して活性化された脳の神経細胞である。それでは雌雄同体カブトエビはどうなっているのかを、遺伝子・分子レベルで紹介する。本講演はJSPS科研費24H02587の助成を受けた研究に基づくものである。

Profile

専門は環境生物・生態学。京都大学大学院理学研究科生物科学専攻（博士後期課程）を経て岐阜大学大学院連合農学研究科を修了、博士（農学）。学部生時代から30年以上に及びモンゴル～バイカル湖流域、ドナウ川流域、日本国内の水田そのほかで系統分類学、水圏生物相および生物地理学研究、希少種の保全生物学の研究などを行ってきた。世界のカブトエビ研究の第一人者として、高校生らと市民科学の醸成を目指している。



深尾 琢

岐阜大学
保健管理センター教授

性同一性障害から見た人の性決定

人の生物学的な男女の性は、動物と同様に遺伝子やホルモンの影響を受けて分かれていく、と言われている。それにもかかわらず人の性が動物の性と異なるのは、人が自分はどちらの性に属するのかを自ら言葉にする点にある。「私の性は〇〇である」と相手に伝えて、なおかつ相手から「確かにその通りだ」と返答してもらうことを切に願うのである。精神科に受診する性同一性障害の当事者は、人の性が社会の他の人々に承認されたものでなくてはならないことを、身を挺して私たちに教えてくれている。

Profile

1992年岐阜大学医学部医学科卒。豊川市民病院、（社）岐阜病院、羽島市民病院、岐阜大学医学部等を経て、2022年より現職。専門は性同一性障害、精神療法、精神分析。私が30年以上携わる精神科の診察室は、性同一性障害に限らず、様々な悩みを通して性が重要なテーマとして持ち込まれる場でもある。



松下 千雅子

名古屋大学
人文学研究科教授

性の多様性とスポーツ

近年、多様な性のあり方に関心が集まり、生まれた時の性別とは異なる性別を自認するトランスジェンダーや、男性・女性のどちらにもはっきりと当てはまらないノンバイナリーの人々を、どのように社会に包摂していくかが喫緊の課題となっている。長年、男性部門・女性部門に分かれて行われてきたスポーツ競技でも、2000年代以降、多様な性アイデンティティを持つアスリートのためのガイドラインが策定されてきた。しかし、トランス女性や性分化疾患を持つ女性を、女性部門に無理なく包摂するための方法についての議論は、いまだに最終的な結論には至っておらず、ガイドラインもこれまでに何度も修正されている。本講演会では、トランス女性や性分化疾患を抱える女性のスポーツ大会への参加がどのように規制されてきたのかを、いくつかの事例をもとに簡単に紹介する。さらに、大学生アスリートを対象に行った社会調査に基づく研究結果を紹介し、アスリートたちの間で多様な性を持つ人々のスポーツ競技への受け入れに影響を与える心理的要因を明らかにする。

Profile

専門は、ジェンダー論、セクシュアリティ論、クィア理論、批評理論。クィア理論を理論的枠組に用いて、ジェンダー・セクシュアリティに関する量的及び質的データを収集し、分析している。現在は、特にセクシュアル・マイノリティのスポーツ参加に関心があり、マイノリティに対する包摂と排除の心理的要因を検討している。